

平成24年度 健全育成協議会並びにふれあい活動のまとめ

1 健全育成協議会・準備運営委員会等について

4月、5月を中心に7中学校区で、健全育成協議会が開催された。地区によっては、事前に準備会が開催され、本年度の活動方針やふれあい活動等について話し合いが行われ、協議会に臨んでいる地区も多い。協議会参加者は、どの地区も総代さん、学区市議会議員さんをはじめ、青少年健全育成に関わる学区公職者のほとんどの出席をいただいている。地区によっては、祭り保存会、長寿会、消防団等の出席をいただいているところもある。

協議会での話し合いの内容は、24年度の活動方針、委託料予算の審議に続いて、子ども・若者の生活状況に関する情報交換、本年度のふれあい活動についての話し合いとなっている。多くの地域の大人たちが一堂に会して、子ども・若者の情報を互いに交換することは青少年の健全育成において大変意義深く、今後も継続した取組を期待したい。

2 ふれあい活動について

本年度も、5月13日をスタートに市内44会場でふれあい活動が開催され、述べ1万2000人を超す市民が参加した。ここ数年中学生の参加率が高く、多くの会場で中学生が中心となって活躍する姿が見られた。ふれあい活動の準備会に中学生を参加させ、様々な意見を求めたり、開催準備のための仕事を任せたりする地区が多くなってきた。こうした大人たちの配慮や期待が、中学生に自己有用感や地区への帰属意識を育み、健全育成に大きな効果がもたらされていると感じた。6月、7月は中学生にとって部活動との兼ね合いもあるが、原則日曜日の部活動の練習は行わないという市内の中学校の申し合わせもあり、事前に開催日が明確になっていれば、今後も多くの参加者を望むことができる。

ふれあい活動の内容は、地区によってさまざまであるが、大別すると地域の公園等をみんなで草刈や清掃する活動、避難訓練や防災教室、運動会やニュースポーツ体験など体育的活動、夏祭り盆踊り、ものづくり体験等となっている。防災訓練等では、後半レクリエーション的内容を盛り込み、参加した子どもたちが楽しむことができるよう配慮している地区がほとんどであった。

参加者全員が互いに名前を覚えたりすることができるよう、ガムテープに名前を書き、それを胸に貼り付けて参加するなど工夫している地区や、ゲームのチーム分けをするのに、お年寄りと小学生、中学生の3人で1チームになるよう工夫している地区があった。そうした地区は、ふれあい活動のねらいを達成するためには、どうしたらよいかとの問題意識をもって、毎年工夫を加えてきているとの主催者の言葉を伺った。

市からの健全育成委託料は限られており、各地区に分配される額だけでは不十分であり、ほとんどの地区が持ち出しての開催をいただいていると聞く。次代の地区を担う子ども・若者が健全に成長してほしいからこそのことである。「地域ふれあい活動」が、子ども・若者の健全育成と地域の絆をより深める一助となることを期待する。